

平和とは何か。世界がどのような状態にあつたら、平和と呼ぶのだろうか。

僕は、世界中の人々が犯罪や戦争に怯えることなく、平穏な日常生活を送ることができる状態、それが平和なのだと思う。あの世界中を巻き込んだ忌まわしき戦争、第二次世界大戦から七十年以上経った今でさえ、世界各地で戦争が起こっている。また、独裁体制を敷いている国もあり、つい最近ではアフガニスタンで再びタリバンが権力の座につき、ミャンマーではクーデターによって軍事政権が樹立された。こういった国々は、支配者が武力によって国民を統制し、国民の命が不当に奪われることも少なくない。世界にはいつ死ぬか分からないという恐怖に脅かされている人々がたくさんいるのだ。このような状況は、平和と呼ぶには程遠いだろう。

ただ、平和への道は閉ざされてしまったわけではない。国連やNPO等の団体は、難民への支援や紛争の仲裁など、平和への活動を続けている。しかし、国連の長年に渡る平和維持活動の努力にも関わらず、安全保障理事会は、常任理事国メンバーの大国の思惑によって、正常に機能しているとは言い難い。最近では中国やロシアを代表とする権威主義国家と、アメリカ、ヨーロッパ等の自由主義国家の対立によって、世界は更に分裂に陥っている。

## 世界の平和に向けて

東海高等学校2年

牛田 蓮

世界がますます混乱する中で、私達高校生ができることは何であらう。例えば、困っている国々への募金活動や、国連、NPO等の平和活動を多くの人々に知ってもらうようなSNS等で呼びかけることも、私達高校生でも可能だろう。今はツイッターなどのSNSを通じて意見を述べることは、比較的簡単にできる。しかし、ただ一方的に自分の意見を述べるだけではなく、今、世界に最も必要なのは、相手の意見を聞き、相手の立場に共感することではないだろうか。自分の主義や意見を一方的に相手に求めるのではなく、まずは相手の言葉に耳を傾け、尊重する姿勢が大切なのではないか。国籍や人種で相手を差別することなく、個人として付き合いを深めることが大事だと思う。

最近この日本でオリンピックが開催された。世界中のアスリート達が競い合う中、励まし合う姿も見た。また表彰台では、国籍や人種を超えて、お互いを讃え合い、喜びを分かち合う姿に、僕は心を打たれた。世界が一体化したように思えたし、平和のあるべき姿がここにあった。

まず、相手を尊重し、きちんと向き合っけ付き合っけいくことが、世界の隔たり、分断をなくし、少しでも平和な世界につながる一歩になる。そして、差別や戦争のない世界がいつの日かやって来るとことを、僕は信じている。